

東区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
ひがしふれあい文化祭		東区ふれあい事業実行委員会			
事業目的	事業効果	活動指標	H28	H29	H30
区民間のコミュニティの輪を広げることにより、明るく住みよい安全なまちづくりの推進の一助とする。 文化の振興発展を促し、豊かな市民生活を伸長するとともに、区民の親睦・連帯の推進を図る。	多くの区民が参加することにより、区域の一層の親睦、連帯、交流を深め明るく住みよい、安全なまちづくりを推進するとともに、区民が事業に積極的に参画することにより、まちづくりのための人づくりが期待できる。 また、絵画等の出展の機会を提供するなど、区民の文化活動を支援することにより、区民相互の親睦・連帯が推進される。	作品展出展応募数	152点	138点	122点
		来場者数	3,270人	3,390人	3,230人
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
○	◎	○	○	来場者数の片寄りが課題であった開催日数を2日間へ変更したことが定着し、それに伴い来場者数に見合った職員数を配置することで、事務局の負担等も改善することができた。	
区民が文化的活動を発表する機会を行政で設け、活動を支援することで、区民間の親睦、連帯、交流が深まり、明るく住みよい安全なまちづくりに寄与しているため、妥当性が高い事業である。	文化祭の準備段階から地域の方によって構成される企画委員会で検討し、当日においても地域の方とともに運営・実施していることから、協働の度合いが非常に高い事業である。	作品展だけではなく、コンサートやワークショップを実施することで、区内のみならず、区域外、市外にも文化的活動を宣伝でき、多くの方を引きつけるインパクトのある事業といえる。			
⑤自立発展性	総合評価				
△	○	例年好評であった野点コーナーやLaQの出展、アフリカ音楽のコンサートの出演を引き続き行い、日本の文化はもちろん他国の文化にも触れることができる催しを行った結果、約3,230人の方に来場頂き、成功裏に終えることができた。一方、作品展の出品数が減少傾向にあるため、広報の方法等、工夫を行う必要がある。			
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	来場者数が一定の水準で推移していることから、当該事業が区民の文化的活動の発表の場として認知されていると判断する。一方で、作品出展者数が減少しているため、今後注視していく必要がある。また、併せて東区で実施されている文化的活動と開催内容等について比較・検討し、差別化や統合化することで効果・効率を高めていく必要がある。				